



【教育目標】

自ら学び正しく判断して行動する国際性豊かな児童生徒の育成
～～～ 一人一人が輝く子どもの姿を求めて ～～～

☆3月の目標

☆3つの「あ」

- ※あいさつ
- ※あんぜん
- ※あとかたづけ

☆配布物のお知らせ

・学校便り51号

☆今後の主な予定

・3月25日卒園式・卒業式
修了式

・4月 8日始業式、入園式
入学式

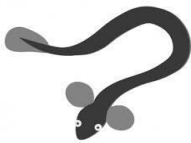
☆四年一組 「ウナギのなぞを追って」を読んで

瀬古 菜名

「ウナギのなぞを追って」は、ウナギがたまごを産む場所をつき止めるために、八十年近くの年月をかけて調査した話です。

わたしが一番心に残ったところは、たまごを見つけて、船の中に大きなかんせいが上がったところです。理由は、この喜びが手に取るようにわかります。わたしは、八十年近くの年月がかかったことにおどろきました。わたしの祖父母が生まれるより前から、調査を始めていたのだと思うと、とても長い間一つのなぞを追いかけてきたのだとしみじみと感じました。

ウナギのなぞを追い求め続けた調査グループの根気とねばり強さに感動しました。



☆四年一組

河野りゅうね

「ウナギのなぞを追って」を読んで
ぼくはこの文章を読んで感心したのは、塚本勝巳さんの努力です。勝巳さんは、自分の人生の三十六年の年月をこの調査についてやりました。なぜ、ぼくがこの人物に感心したかというところ、努力のほかに探求心があったことと探求心とは、理由を求める心と心とです。探求心とは、理由を求める心と心とです。このウナギのなぞに目を付け、そして、それを三十六年間続けられるゆう気がすごいと思います。そして、この世に勝巳さんのような人がたくさんいるとたくさんさんのなぞがとけます。ぼくはこんな人になりたいです。

☆四年一組

野村 玲太郎

「ウナギのなぞを追って」を読んで
この物語は、筆者がウナギのたまごを産む場所を追い求めていた三十年間、どのように場所を明らかにしたのかの調査の物語です。一九三〇年ごろからこの調査が始まりそして、約三十年後、体長五十四ミリメートルのウナギの赤ちゃんが見つかりました。しかし、この大きさだとかかなりのきよりに調査を続けました。筆者たちは考えさ年長年の苦勞の末、ついにたまごを見つげることができたのです。ぼくは、この本で、どこにウナギのたま

☆四年一組

椎葉 亮太

「ウナギのなぞを追って」を読んで
ごがあるのかについて、とてもきよみを持ちました。かれらは、きつと新しい発見をしたという気持ちがあったからこの調査をつづけていたのだと思います。そして、調査グループは、最後まであきらめない気持ちと、新月のころ、フロントと海山の連なりが交わる場所にたまごを産む」という予想があったから、たまごを見つけたと思いました。この本を読んで、ぼくも生物学者の仕事をしたいなと思いました。なぜなら、ぼくもこのような体けんをしてみたいからです。そして、この物語は、ぼくに「あきらめずにやれば、いつかじょうじゅする」ということをおしえてくれました。

ぼくは、このウナギのなぞを追って思ったことや不思議に思ったこと、ウナギのたまごを見つけた人たちは、ずっといっしょうけんめいで、ウナギのたまごをさがしてきて、とてもいい人なんだなと思いました。二つ目は、ウナギを見たいです。食べたこととはありますが、実際には見たことがないから見てみたいです。さいごに、不思議に思ったことは、レプトセファルスみたいにとうめいな魚は見たことがありません。なぜ、とうめいなのか、不思議に思いました。

☆四年一組 「ウナギのなぞを追って」を読んで

大幡 番久

「ウナギのなぞを追って」という本をしようかいたします。この本は、一九三〇年ごろからひっしやが始めたウナギのたまごをさがす話です。

最初は、より小さいウナギを追い求めている調査から始まりました。ウナギの赤ちゃんの名前はレプトセファルスと言います。最初に見つかったのは、台わん近くの海で、体長は五十四ミリメートルでした。レプトセファルスは、海流に流されやすくなっています。海流の上流に行くほど、その大きさは、四十、三十、二十メートルと小さくなっていききました。小さくなっていくということは、たまごに近づいているということですよ。
はたしてひっしやたちは、たまごにたどりつけるでしょうか。

☆三年二組 絵日記

山下 しゅう

ぼくは、妹といっしょにバツタをかっていきます。茶色くて、二センチ五ミリメートルくらいのバツタです。一ぴきしかいませぬ。けれどもたまごをうみました。ふしぎだと思いましたが、メスだというところがわかりました。たまごをうむところが見れましたが、おしりをのぼして、くにくに動かしながらたまごをうんでいました。きもちわるかったです。

ぼくといもうとで世話をしています。かんさつケースをあらいます。すぐくたいへんです。バツタをほかのケースにうつす時がどきどきします。なぜなら、にげてしまうからです。たまにエサをあげたり、水スプレーします。一ばんすきなのはしばでした。長生きしてほしいです。

☆三年二組 絵日記

日置 かいん

ぼくは、ゲームのことをありがたうと思っています。わけは、ゲームはぼくにとつてたのしませてくれるからです。だから、ぼくもゲームをたいせつにして、おとなになってもつかいをつけたいです。



☆三年二組 絵日記

山田 琴子

今日、学校のかえりに友だちの家に遊びに行きました。遊んだ後に友だちのお母さんがばんごはんを作りました。かいだんを下りてくるときに、今日のばんごはん何。と、わたしが聞きました。ぎょうぎ。」



と、友だちのお母さんが言いました。台所にいって、いすにすわってみたら、ぎょうぎだけでした。「ごはんはありますか。」と、わたしがきいたら、友だちのお母さんが言いました。今日はぎょうぎだけだよ。」わたしはびびくりしました。日本は、ふつうごはんとおみそしるとおかずです。でも、友だちは、中国の人だから、食べるものがちがいます。ぎょうぎだけがあるのはしりませんでした。

☆一年一組 大きくなったら

ふく田 りょう

ぼくは、しょうらい、車のぎじゅつしゃになりたいです。トヨタに入り、かっこいいオーブンカーをつくりたいです。じぶんがつくったカーをオーブンカーでとうきょうをーしゅうしたいです。つきに、ましゅうまわりたいです。



☆一年一組 大きくなったら

田川 し音

ぼくは、大人になったら、空をとびたいです。空をとぶマシーンをじぶんでつくりたいです。



☆一年一組 大きくなったら

あだち たくみ

ぼくは、おおきくなったら、アメリカのどとうりょうになりたいです。どうしてかというとき、せかいの人がへいわにくらせるようにしたいからです。まわりの人がわるいことをしても、ぼくはわるいことをしなくて、たのしいことだけします。



☆一年一組 大きくなったら

山下 かお

わたしは、先生になりたいです。なぜかというと、子どもにかん字をおしえたいからです。かん字がすきだから、おしえたいです。さんすうもすきです。けいさんがすきです。いつもいえてけいさんをしています。わたしは、おかあさんにもなりたいです。子どもがほしいです。なぜかいうと、かぞくとくらしたいからです。



